

名古屋大学学生文化研究会 — 学生による受験産業 —

今年も受験シーズンがやってきましたが、日本では受験生に様々なサービスや情報を提供するいわゆる受験産業が発達しています。ただ、1950年代から60年代にかけては、有力な国立大学の学生による団体がその役割の一翼を担っていました。

名大にも、「名古屋大学学生文化研究会」（以下、学文研）がありました。主な活動は、名大入試の出題傾向に対応した模擬試験「名大学力コンクール」（通称「名コン」）、講習会、通信添削、名大受験情報誌の刊行などで、名大に特化した受験産業ともいえるものでした。

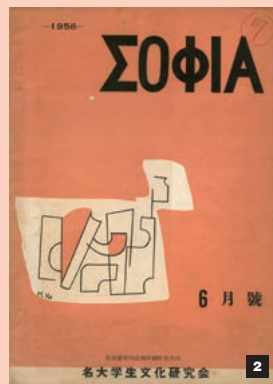
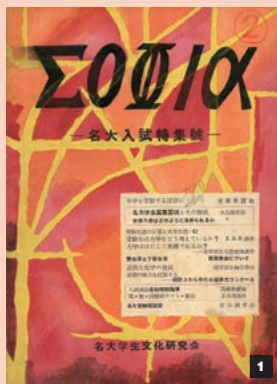
1951（昭和26）年に発足した学文研は、名大の学生便覧にも掲載されています。初掲載の1954年度は、「厚生関係」の項目に登場します。「客観的」には中学校・高校生徒の「学力向上に寄与」し、「主体的」には名大生の「厚生福祉」を目的とする「特殊の学生団体」とされました。厚生福祉への貢献は、模試の監督や採点、通

信添削など、名大生に延べ約5千人分のアルバイトの口を提供したことです。65年度には延べ1万人以上と書かれています。名大学生部の「援助指導」の下に活動しているとすれば、半ば公認団体です。後年も文化サークルの欄には載らず、名大生協と並んで扱われていました。

学文研の解散時期については必ずしも明らかではありません。学生便覧には1967年度から載らなくなりますが、68年度にも事業を継続していたことを示す史料も残っています。ただ69年には、河合塾も採用したという「名コン」が行われなくなっており、その頃に活動を停止したものと考えられます。

全国的にも、同種の団体は1960年代半ばから減少し、70年には姿を消しました。この時期は、大学紛争の時期と重なります。名大でも、学生が大学名を冠して営利活動を行うことへの批判があったようです。

〔参考文献：『名古屋教育史Ⅲ』〕



- 1 『名大受験 SOFIA』（1953年2月、73頁）。学文研は名大生が「名大諸教授と共に、諸君の勉学の指導に当たっている会である。」と記されている。同誌には、特に教養部教官による記事が多い。バックナンバーは、6冊しか現存を確認できていない。
- 2 『Sofia』（1956年6月）。誌名から「名大受験」はなくなっている。毎月刊行されていたようである。学文研の所在地は「中区南外堀町名大内」、つまり大学本部のあった名城キャンパスとされている。
- 3 『名大受験 Sophia』（1958年12月、奥付の誌名は「Sophia」のみ）。同誌は、名大入試の対策や諸情報のほか、名大の紹介にも多くの誌面が割かれている。
- 4 『名大受験』（1962年10月）。1961年度から季刊になったとみられ、誌名から「Sophia」が消えている。価格は100円。本号が現存の中で最も新しいが、廃刊の時期は不明。
- 5 名大名城キャンパスの正門（写真1の号の口絵より）。

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集…

など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp